




# 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 長野県 】

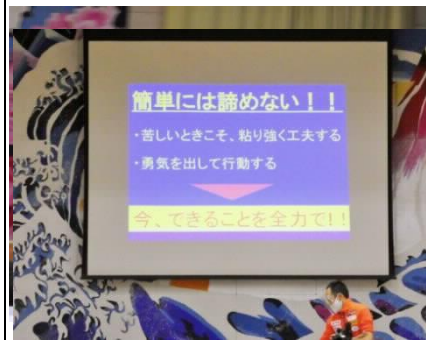
学校名【 長野市立更北中学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ <b>V</b> (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	1学年 (男子98名 女子89名 計187名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 <b>次の5つのうちから選択しOをつけてください【複数選択可】</b> ① 教科名 ( ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( 特別活動 ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	パラリンピック選手からお話を伺うことで、競技の意義を学んだり関心をもったりする。 パラスポーツに取り組む選手の思いや、取り巻く環境を知り、理解を深めるとともに、自分と社会とのかかわりについて考える。
5 取組内容	①【小池選手による講演会（10月）】  実際に競技で使用しているスキーや自転車、装具などが展示されている中、写真や動画を見ながら学習した。  片手での靴ひもやネクタイを結んだりペットボトルのふたを取る体験も行った。 



講演の途中の休憩タイム。  
用具を触らせてもらったり、小池選手に質問したりする機会をとり競技を実感することができた。

ストレッチをして体をほぐし、講演後半へ。



講演前半は、小池選手の生い立ちや取り組んでいる競技について、後半は、パラリンピックの歴史や障がい者を取り巻く環境についての課題などについて学んだ。

#### ☆小池岳太選手

長野県岡谷市出身

冬季パラリンピック出場（アルペンスキー）

2006年 トリノパラリンピック（大回転 19位など）

2010年 バンクーバーパラリンピック（滑降 12位など）

2014年 ソチパラリンピック（大回転 9位など）

2018年 平昌パラリンピック（複合 14位など）

#### ②【ボッチャ体験会（12月）】



まずは、「置きボッチャ」制限時間内に紙の上にボッチャの球を積んでいく。工夫し合う声が自然と聞こえてきた。

距離感をつかむために、8mほど離れた的（紙）に向かってボールを投げた。簡単そうに思うようにいかず、微妙な調整が必要なのが面白さにつながるようだった。手前にあるボールに当てて、的に乗せようとする生徒もあり、その後のゲームへのヒントにもなった。





ゲームでは、目標の白球に、いかに近づけるか…自然とアドバイスの声が飛び交う様子が見られた。勝ち負けを競うゲームではあるが、「すごい」「うまい」「惜しいなあ」など、肯定的な声掛けが多く、男女混合のチームであったが、どの生徒も楽しく取り組むことができたと思われる。

## 6 主な成果

### 【講演会】

一流のスポーツ選手は、恵まれた資質や環境の中で育ち、経験を積むことができ、成功を手に入れた特別な存在に思われがちである。しかし、小池選手の講演では、今回話を聴かせていただいた1年生と全く変わりのない普通の中学生在が、挫折や出会いを繰り返し、1つ1つの経験を大事してきたことで、今の自分があることを率直に語ってくださり、生徒たちが夢や希望をもてる機会となった。「努力と根性でなんとかなる」というような内容ではなく、自分の夢に素直に向かっていくこと、それがどんな夢でも、自分の夢なら素晴らしいものであること、夢は自分の思いだけでなく、周りの人の支えがあって初めて成し遂げられることなどのお話は、生徒それぞれが、今の自分に自信を持ち、将来の夢に期待をもつことができた。

また、競技種目の魅力やパラリンピック開催の歴史などを映像を用いながら伝えてもらったり、休憩時には、用具に触れさせていただいたり、小池選手の体つき（筋肉）を間近で見させていただいたりすることで、努力や支えに裏付けられた「すごさ」を実感することができた。さらに、障がい者を取り巻く現状、とくに、「海外では障がいの有無にかかわらず誰もが自然と手を差し伸べることができるが、日本は、役割もった誰か（福祉関係者など）がやることだ」という風潮がある」など、福祉にかかわるお話も聞くことができ（講師がこういうこともぜひ学んでほしいと事前の打ち合わせで要望あり）、福祉や人権にかかわる学習につながられる機会ももった。

### 【ボッチャ体験】

「ボッチャは障がい者スポーツではなく、障がい者も楽しめるスポーツ、障がいの有無、年齢、性別の関係もなく、誰もが一緒に活動できるユニバーサルスポーツである」との講師のお話が印象的だった。「膝を使って投げるのがポイントだけど、車椅子の選手には、このアドバイスは…?」「投てき順は言葉で伝えず、無言で色の札で示すけど、何で?」など、競技の特性や意味を考える場面も取り入れていただきながら、生徒たちは体験を通して、『障がい者も楽しめる』との言葉の意味を実感できたように感じた。事後の感想には、「班の人と協力できてよかった」「誰でも楽しめるスポーツっていいな」「みんなの心をつないでくれるスポーツでした」などの言葉が数多く見られた。日頃の友人関係や性別、運動の得意不得意などを超えたかかわり合いの良さ、楽しさを学ぶことができ、心の垣根をこえて人とかかわっていくことの心地よさを感じ取ることができたと思う。

<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>講演会では、講師が毎週末に長野県内でトレーニングされていることを知り、それに合わせ、事前に打ち合わせの機会をもつことができた。そのため、入退場の演出方法や展示用具の設置、マイク等の放送機器の準備など、講師が希望する講演会を設定することができた。学区内に長野冬季オリンピックの会場となったホワイトリングがあり、文化祭では運動会の会場として使用している。そのため、冬季スポーツにかかわる講師からお話を伺うことで、地元の歴史や施設を大切にしようとする心情を養うこともできる。</p> <p>ポッチャ体験では、活動経験がある職員がいなかったため、教育委員会の指導主事を講師として依頼した。必要な用具もお借りすることができた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に課題はありません。話のみの講演だと飽きてしまうこともあるだろうとストレッチや展示用具を見学する時間、トイレ休憩をとっていただいた。メリハリをもって講演をお聞きすることができた。</li> <li>・放送機器がきちんと使えるかの確認は重要。(ピンマイク、ワイヤレスマイク、プロジェクターなど、講師の要望に答えられたり、準備していたものが充分使えたりできるか)</li> <li>・ポッチャ体験は、福祉教育のみならず、人間関係づくりや地域(お年寄りや小学生など)との交流などでも活かせると思われる。必要な数だけの道具を用意するのは、予算面でなかなか難しいと思われる。簡単に貸し借りできるように公民館や拠点となる学校に設置できるとよいと思われる。</li> </ul>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教員だけでは伝えられることに限度がある。専門の指導ができる方やアスリートの方に来ていただけるようにしたい。</li> <li>・英語の教科書には、「車いすバスケットボール」や「ゴールボール」の教材が掲載されているので、同様な種目を体験してみたい。</li> <li>・長野車いすマラソン大会アスリート講演会に応募した。3学年で実施予定。</li> </ul>